

人文科学研究科比較文化専攻カリキュラム・マップ

DP（教育目標）

- DP1 比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。
- DP2 文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。
- DP3 専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。
- DP4 比較文化の視点に基づく研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに国際的協働に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	SDGs該当項目
研究指導	比較文化研究指導Ⅰ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	◎	○			
	比較文化研究指導Ⅱ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	◎	○			
	比較文化研究指導Ⅲ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	○	◎			
	比較文化研究指導Ⅳ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	○	◎			
	比較文化研究指導Ⅴ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。			◎	○	
	比較文化研究指導Ⅵ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。			○	◎	
	比較ジェンダー論研究指導Ⅰ	2	選択	この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。	◎	○			
	比較ジェンダー論研究指導Ⅱ	2	選択	この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。	◎	○			
	比較ジェンダー論研究指導Ⅲ	2	選択	この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。	○	◎			
	比較ジェンダー論研究指導Ⅳ	2	選択	この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。	○	◎			
	比較ジェンダー論研究指導Ⅴ	2	選択	この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。			◎	○	
	比較ジェンダー論研究指導Ⅵ	2	選択	この科目では、履修者の研究テーマに即した課題を設定して、比較ジェンダー論領域の博士論文の指導を行う。博士論文作成に関して、関連領域も含む先行研究のレビューを重点的に行い、論文の位置づけを明確に行うことを目標とする。さらに博士論文の分析枠組みの構築、理論の検討、仮説の設定と検証、考察などについて、論文執筆の進捗状況に合わせた指導を行う。履修者は、論文作成計画に基づいて、段階を踏みながら論文執筆を進める。			○	◎	
	国際日本学研究指導Ⅰ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいるように助言、指導を行う。	◎	○			
国際日本学研究指導Ⅱ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいるように助言、指導を行う。	◎	○				
国際日本学研究指導Ⅲ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいるように助言、指導を行う。	○	◎				

	国際日本学研究指導Ⅳ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。	○	◎			
	国際日本学研究指導Ⅴ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。			◎	○	
	国際日本学研究指導Ⅵ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。			○	◎	
共通 基盤 科目	研究法概説(研究資源探索・論文執筆)	2	選択	各履修者が博士論文の全容、あるべき形をイメージできるようにすることを目標とする。また、論文を作成するための知識と技法、研究倫理を再確認し、博士論文の執筆に備えることを目標とする。そのために、まず、博士論文とは何かということを考える。次に、留学生もいることを視野に入れて、日本の研究機関や関連の研究資源にはどのようなものがあるか紹介する。そして、研究方法、リサーチの仕方、文献の分析・使い方・仕方、引用・注・参考文献の書き方とその考え方を再確認する。最終的に、受講生が今後の研究計画について一通り立てられるようにする。			◎		
	研究法概説(情報学・統計学)	2	選択	博士課程における調査研究を行うための研究調査法を身につける。研究とは、明確な問題意識をもち、設定されている課題を解決するために計画的・系統的に情報・データ・事実を収集し、適切な認識的枠組み(理論・仮説・分析フレームワーク)のもとに分析・解釈し論文にまとめ発表することである。質的研究の方法として、面接法・観察法・質問紙調査法を学ぶ。量的研究の方法として、データの視覚化・探索的データ解析、2群比較(検定、ウィルコクソンの順位和検定)、多群比較(分散分析、クラスカル・ウォリスの順位和検定)のほか、相関分析、回帰分析、因子分析、共分散構造分析、統計的テキストマイニングを学ぶ。			◎		
研究 特論	日本文学特論A	2	選択	社会のグローバル化のなかで、日本文学研究についても変革の試みの一つとして、外に開こうとする動きがある。日本文学、特に古典文学に対する中国からの直接的間接的影響については、早くから認識され研究もされてきた。こうした伝統的な比較文学研究とは異なり、近年では、地域的枠組みの変化を背景に、西欧に対する東アジア、特に漢字文化圏を視野に、種々の方面から文化的共通点や相違点を探索し、新たな文学史の構築が試みられている。そこで近年発表された論文や研究書からいくつかの話題をとりあげて、東アジアにおける日本文学(主に古典)の現在を知り、各院生の研究や将来の教育の糧となるようにしていきたい。	◎		○		
	日本文学特論B	2	選択	日本文学の論じられるトピックを、現代の研究の潮流を視野に入れながら、専門的に学ぶ。近年発表された論文や研究書、あるいは研究史上重要な文献をもとにトピックを選択し、日本文学に対する知見を深め、各院生の研究や将来の教育に資するものとする。	◎		○		
	日本語学特論A	2	選択	専門的な文献や資料の読解を通して、日本語研究の重要な分野・領域について考えを深める。この授業では、縦軸として日本語学の研究分野である「日本語史」から日本語がどのように変化してきたかを学ぶ。主に品詞、表現、文体、敬語などの変遷についての研究論文を読み、日本語が過去から現在に至るまでどのような変遷を経てきたかという史的な視点を広げるだけでなく、現在生じている様々な変化を多角的に考える力を養う。横軸としては、日中両言語の相違点や中国人学習者の初級から上級レベルの文法、語彙、(共起)表現、説明・描写の視点などに関する習得上の問題を分析・考察し、そこで得た知見や視点を生かしながら、教育実践の場で役立つ具体的な活動案を案出する力を養成する。	◎		○		
	日本語学特論B	2	選択	日本語研究で重要な文献やテーマ、近年の研究成果等を検討する。現代日本語は、文法や意味、談話などさまざまな分野で研究が進められている。これらの分野から、重要な文献や先端的な文献を、事例とともに検討し、履修者の日本語研究の展望を得る一環とする。その中に、日本語の語の意味研究があり、長年にわたる研究成果とともに、近年ではコーパスを用いた研究や認知言語学的な視点からの意味分析も活発である。重要な先行研究とともに近年の多義語や類義語の分析方法とその分析事例を考察する。	◎		○		
	日本語教育学特論A	2	選択	日本語教育研究の主要なテーマから、研究史的に重要な文献や近年の先端的な研究成果などを取り上げる。履修者は、それに基づいて日本語教育研究について展望を得て、自らの研究の進展に生かすようにする。そして、日本語教育に携わる履修者は、その知識を教育の現場にどのように導入するかも考えていく。	◎		○		
	日本語教育学特論B	2	選択	日本語教育研究の主要なテーマから、研究史的に重要な文献や近年の先端的な研究成果などを取り上げる。履修者は、それに基づいて日本語教育研究について展望を得て、自らの研究の進展に生かすようにする。そして、日本語教育に携わる履修者は、その知識を教育の現場にどのように導入するかも考えていく。	◎		○		
	地域文化特論A	2	選択	東アジア世界全体を視野に入れて、「比較文化」及び「物質文化」という切り口から、資料に即して具体的に考察することを目標とする。そのために必要な幅広く体系的な知識の修得、また考古学的な視点の修得も併せておこなう。特に、グローバルな視点から、大陸、半島、列島間の文化的な影響関係を、実体に即して正しく認識することを旨とし、必要に応じて各自の研究内容に反映できるようにする。いわゆる東アジア地域を対象とし、特に物質文化の視点に立って、無文字社会の段階から歴史時代まで、幅広く地域特性を明らかにする。主に考古学的手法に基づいて、具体的な分析や比較検討をおこない、比較文化の視点を豊かにすると共に、各自の研究テーマの設定や掘り下げに活かしていく。	◎		○		
	地域文化特論B	2	選択	比較文化に関連する専門書を輪読・精読しながら、比較文化の視点から地域文化について理解を深め、文化分析の能力を培う。具体的には、国際関係論に関連して、比較文化・地域文化研究に資するものを輪読・精読文献とする。短期間で多数の文献を読み込みながら、履修者はそれぞれの研究関心に応じて、関連する研究発表とタムペーパー・研究論文の提出をし、研究者として独自の視点の確立を目指す。	◎		○		
	ジェンダー特論A	2	選択	本授業の達成目標は、博士論文作成に必要とされるジェンダー研究の専門知識を習得することを通じ、質の高い論文作成に向けた研究を行えるようになることを目指すことである。履修者は、博士論文テーマに関連したジェンダー研究の専門知識について、文献を購読し、より質の高い研究成果を発表できるようにする。研究内容についてのレジュメを作成し、授業において発表し討議を行う。	◎		○		5
	ジェンダー特論B	2	選択	本授業の達成目標は、博士論文作成に必要とされるジェンダー研究の専門知識を習得することを通じ、質の高い論文作成に向けた研究を行えるようになることを目指すことである。受講生は、博士論文テーマに関連したジェンダー研究の専門知識について、文献を購読し、より質の高い研究成果を発表できるようにする。研究内容についてのレジュメを作成し、授業において発表し討議を行う。	◎		○		5
実践 研究 ・ 研修	上級日本語教授法Ⅰ	2	選択	日本語教育を専攻する者を対象に、日本語教授法の理論的枠組みや実践研究をさらに学び、履修者それぞれの研究の発展に役立たせることを目指す。			○	◎	
	上級日本語教授法Ⅱ	2	選択	日本語教育を専攻する者を対象に、日本語教授法の理論的枠組みや実践研究をさらに学び、履修者それぞれの研究の発展に役立たせることを目指す。			○	◎	

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」